



農業を未来につなぐ地域計画

～地域の今後の農業について話し合いませんか～

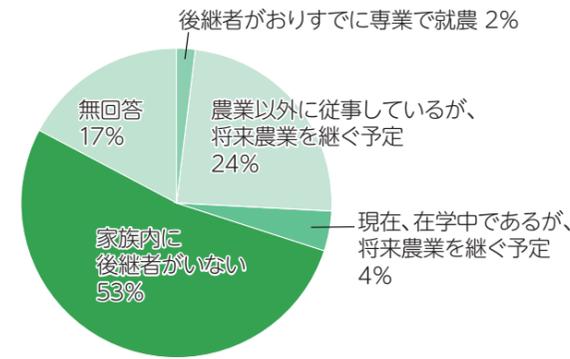
問(市)農業振興課 農業政策係

地域計画策定の流れ

- ① 推進体制づくり
集落内で誰が中心となって、どのようなメンバーで進めていくのかを明確にした推進体制を作ります。
- ② 農業者への意向調査
農地所有者の方々に、将来の農地管理について調査を行います。
- ③ 意向調査結果のまとめ
意向調査の結果をもとに、農地ごとに10年後の耕作状況や管理状況を把握します。
- ④ 将来の地域農業や農地利用について話し合い
将来、農地ごとに誰が耕作するか(担い手をどうするか)、どう利用するかを地域の皆さんで話し合い、その結果を地図に落とし、将来の姿を描きます。
- ⑤ 地域計画の策定
地域で話し合った内容をもとに地域計画を策定します。



〈アンケート回答〉家族の中に後継者はいますか



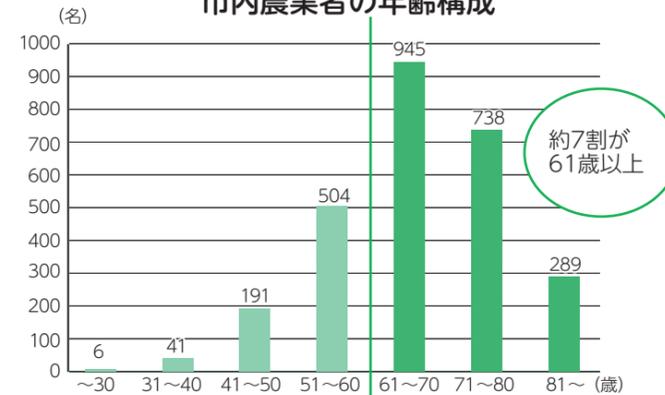
市の農業の現状

市の面積の約2割をしめる農地(2,218ha)。10年後、20年後、

市内では農業者の高齢化、後継者不足などから、これからの農業を危ぶむ声が多く、地域で上がっています。

今、市内で行われている農業生産や農地利用、そして、酒米「山田錦」をはじめ多くのブランド産品を未来に引き継ぐために、市では「地域計画」の策定を進めます。

市内農業者の年齢構成

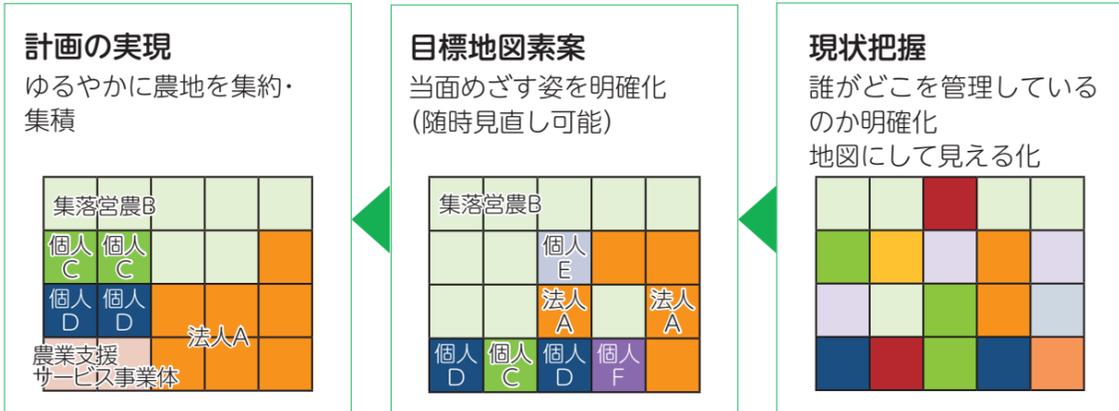


(出典)三木市農業と農村の振興に向けたアンケート調査(令和2年8月)

皆さんの暮らす地域の田んぼや畑は、どうなっていると思いますか? 市内では、酒米「山田錦」をはじめ、野菜や花、ぶどうなど全国、世界に誇る多くのブランド品が栽培されています。

令和2年8月に市内約2千7百名の農業者に行ったアンケートによると、50%を超える方が「家族内に後継者がいない」と回答し、約7割が「61歳以上」と高齢化が進んでいます。市では、今後も引き続き、地域の農地・農業を守り、多くの方々によって

地域計画(農地利用地図)のイメージ図



将来、誰が地域の農業を担う?

地域計画では、将来の担い手をどうするかの話し合いも行います。「個人農家」や「認定農業者」、「認定新規就農者」、「集落営農組織」のほか、農作業の受託サービスを提供する事業体や意欲的に農業に取り組む方々も、担い手に位置付けることができるので、広い視点で考えることができます。

・認定農業者：農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫により策定した

農家の想いを伺いました

吉川町福吉地区では、ほとんどの世帯で農地を所有し、主に山田錦などのお米を栽培しています。同地区にかかわらず、農家の高齢化や後継ぎがないという問題が起っています。

今までは根拠なく、周りが高齢になってきたと感じていましたが、地域計画の取組で農地利用地図を作成した際に、70歳以上の農家が半分を占めていることが判明しました。その結果から5年10年後の時代に担い手が少なくなることを

育成されたブランドをさらに発展させるため、農業者や地域の皆さんとともに「地域計画」の策定を進めます。

「地域計画」とは

地域農業の将来を守るため、農業者をはじめ、地域の皆さんが話し合っで作る地域農業の未来設計図で、10年後の姿を描きます。

地域の農地を誰が耕作するのか、地域の環境や暮らしをどのように守っていくかを、農業者だけでなく、地域の皆さんの話し合いの結果をもとに、県や農協などの関係機関と協力しながら市が「地域計画」を策定します。

この計画は、国が定める「農業経営基盤強化促進法」という法律で定められており、令和5年4月〜令和7年3月に策定することになっています。



経営改善計画が市に認定された農業者のこと(令和5年4月現在・市内57経営体が認定)。

・認定新規就農者：新たに農業を始めるようとする方で、作成した青年等就農計画が市に認定された新規就農者のこと(令和5年4月現在、市内11経営体が認定)。

・集落営農組織：集落など、まとまりのある地域内の農家が、農業生産を共同で取り組む組織のこと(令和5年4月現在、市内55組織が活動)。

危惧しています。

農村環境は農家だけでなく、家族、後継ぎ、近隣住民など村全体の



の問題だと思っています。地域計画を活用し、地域ごとに共通認識を持ち、農業を残すために何が必要かを話し合っ進めていきたいと思っています。



福吉地区 区長 永塩 有さん